

支え合うボランティアの  
仕組みづくりを強化するべき

津本裕子議員(公明) ①被災地へのボランティア活動に対する支援策はどういうものか。

②家屋調査士や臨床心理士等専門的スキルを持つ市民との支援体制がとれないか。

市長 ①問い合わせがあった場合は小平市社会福祉協議会のボランティアセンターを紹介し、同センターが個々の相談に応じるとともに、保険の加入受付や都民ボランティア活動の情報提供、紹介等もしている。

②現在もさまざまな分野で応援協力体制を組んでいるが、今後もさらに充実させたい。

防犯条例の制定と  
自転車の安全対策について

川里春治議員(政和) ①なぜ小平市に防犯条例がないのか。

②歩道を走る自転車や交差点での出会い頭の事故対策は。

市長 ①平成15年に制定された東京都安全・安心まちづくり条例に準拠して対応してきたためであるが、今後制定に向けた検討をしたい。

②通学路点検等で危険箇所を把握し、市道にはストップマークやカーブミラーを設置し、都道は安全対策の要望をしている。

グリーンロードの  
防犯対策について

磯山亮議員(政和) ①防犯対策としての取り組みは。

②狭山・境緑道の花小金井駅から西東京市へ続く一帯の安全対策は。

市長 ①ボランティアや利用者

からは状況の変化や危険箇所、気づいた点などについて情報をもらっている。情報は小平警察署や緑道を管理する都へ連絡し、対応をお願いしている。

②緑道の管理は都が行っている。状況を確認の上必要に応じて都に連絡し、対応をお願いしたいと考えている。

産業  
暮らし

小平市商店街の活性化に関する  
条例の活用状況について

永田政弘議員(政和) ①行政としてできることは何か。

②もっと積極的に支援のアピールをできないか。

市長 ①行政は商店会及び事業者の活動を側面から支援するものと考えており、関係機関が相互に連携して取り組むことが重要であると考えている。

②ホームページでは随時商店会の活動を紹介している。商店会向けには市の支援策をまとめた冊子を配布し、説明会も実施している。

シテイセールのための  
戦略の策定について

磯山亮議員(政和) ①シテイセールの進め方をどのようにとらえているか。

②戦略策定には分析や研究が必要と考えるが市の考えは。

市長 ①単に町を売り込むだけでなく、市の魅力や可能性を外部に効果的に発信して、人や物

資金や情報を町に呼び込む活動ととらえている。

②現時点では地域資源を発掘する段階と認識しているが、丸ポスト事業やグリーンロードに関連する取り組みはシテイセールスの一環ととらえている。今後は戦略的なシテイセールスについて研究していく。

小平市内農地の現状と  
保全及び維持について

小野こういち議員(政和) ①農地に対する認識と農地保全及び支援の対策は。

②農地の買い取り請求に対する対応と財源は。

市長 ①多面的機能が有り、良好な市民生活のために重要であると認識している。認定農業者の育成等さまざまな施策を展開して農業振興を図っていく。

②生産緑地の買い取り申し出に積極的に応じることは難しいが、都市計画施設予定地に含まれるものは個別に判断していく。財源は国及び都支出金等の特定財源を活用していく。

市民の多重債務問題に対する  
取り組みを問う

石毛航太郎議員(フオ) ①市の税の催告書に多重債務相談のチラシを同封して予定どおり発送したのか。

②チラシ発送後の反応は。

③今後の取り組みの予定は。

市長 ①5月に2千8百8件の催告書とともに送付した。

②消費生活相談室にチラシを見て連絡したという相談が3件あった。

③7月の催告書の発送時にもチラシを同封するほか、納税相

談コーナーや市内公共施設にもチラシを置く等内容の周知を図っていく。

現在の経済状況がもたらす  
市民等への影響について

宮寺賢一議員(政和) ①震災を含む経済状況がもたらした市内小売売上高への影響は。

②市独自の対応策は。

市長 ①ガソリン等のエネルギー価格の値上がり、電力不足、自粛ムードの高まり、消費マインドの低下など震災による間接的な影響が出ている。

②不況対策特別資金融資あっせん制度を見直し、融資限度額拡大と返済期間延長を行った。また、被災地支援と市内商店の

医療・健康

医療関連情報の相談窓口を  
設置してほしい

常松大介議員(フオ) ①世論調査で相談窓口として市民要望の高い医療相談への見解は。

②健康課窓口での相談業務にどんなものがあるか。

市長 ①昨年度の世論調査では、今後希望する無料相談に関する自由記述のうち健康・医療が14件と3番目に多く、市民の関心は一定程度あると認識している。

②妊娠、出産、育児に係る健康相談、栄養相談、歯科衛生相談、生活習慣病予防に関する相談などを実施している。

がん検診の評価と前立腺がん検診と  
骨粗しょう症検診の新設を  
末廣 進議員(共産)

①前立腺がん検診を、50歳から74歳ま

活性化を目的にプレミアム商品券の発行を予定している。

グリーンロードを快適な空間と  
するための整備を進めてほしい

津本裕子議員(公明) ①都に狭山・境緑道の歩行者用道路を整備するよう働きかけては。

②市の担当を一本化し、グリーンロードを活性化の柱として総合的に取り組むべきでは。

市長 ①都に確認したところ、西東京市側から多摩湖方面に向けて改修しており、時期は未定だが小平市内の緑道も改修する予定とのことである。

②関連部署間の連携を密にしながら、積極的に市の魅力や情報を発信していきたい。

75歳以上の医療費の無料化に  
向けて通院分の自己負担の助成を

末廣 進議員(共産) ①75歳以上の医療費の無料化についてどう考えているのか。

②通院分の自己負担の助成に必要な経費は幾らか。

市長 ①75歳以上の方が加入する後期高齢者医療制度は都内すべての市区町村が加入する東京都後期高齢者医療広域連合によって実施されており、公平性と事業の安定性という観点から一定の負担は必要と考える。

②平成21年度の一部負担金が入院外で約4億6千万円、調剤分で約3億円あり、年間で7億6千万円超と推計される。

介護保険事業の  
実施状況について

吉池たかゆき議員(みな) ①地域包括支援センターの設置状況はどうか。

②地域支援事業の今後は。

市長 ①第3期介護保険事業計画に基づき、市内を4つの日常生活圏域に区分けして各圏域に1か所ずつ設置している。

②可能な限り住みなれた地域で生活できるように、医療と

介護の連携強化や介護サービスの充実強化、予防の推進、多様な生活支援サービスの確保、権利擁護、住まいの整備という視点で取り組んでいく。

新たな高齢者保健福祉計画・  
介護保険事業計画の策定に向けて

平野ひろみ議員(生ネ) ①計画策定調整会議の体制とスケジュールは。また、パブリックコメントは実施するのか。

②地域包括支援センターのこれまでの取り組みと課題は。

市長 ①健康福祉部の部長で構成し、部内に設置している。本年度末までの策定に向け、素案のうえ上がる本年秋にはパブリックコメントを実施する予定である。

②職員の増員や出張所の開設で基盤を整備し、昨年度はパンフレットを全戸配布した。今後は専門性の強化と、地域でのネットワーク構築機能の充実が必要と考える。

第5期介護保険事業計画は  
高齢者の命と暮らしを守るものに

木村まゆみ議員(共産) 地域密着型サービス、特に小規模特別養護老人ホームの増設に力を入れるべきでは。

市長 第4期介護保険事業計画では地域密着型サービスの充実を重点施策とし、中でも小規模特別養護老人ホームの整備を重点事業としている。しかし、在宅での介護の希望も多いため、通いを中心として随時訪問や、泊まりを組み合わせた小規模多機能型居宅介護の充実にも取り組んでいる。今後も施設サービスと在宅サービスをバランスよく

福祉

介護保険事業の  
実施状況について

吉池たかゆき議員(みな) ①地域包括支援センターの設置状況はどうか。

②地域支援事業の今後は。

市長 ①第3期介護保険事業計画に基づき、市内を4つの日常生活圏域に区分けして各圏域に1か所ずつ設置している。

②可能な限り住みなれた地域で生活できるように、医療と

整備し、希望に沿ったサービスを選択できるように継続的に取り組んでいく。

トウレット症候群に  
ついて取り組みを

堀浩治議員(政和) ①市としての取り組みはあるか。

②教育現場への周知をどうしていくのか。

③市民への情報発信は。

市長 ①精神障害者保健福祉手帳及び自立支援医療費の対象であり、認定された方は障害福祉サービスの利用が可能である。教育長 ②トウレット症候群に特化した周知は現時点では考えていないが、教員研修で取り扱うことも考えられる。

市長 ③特化した対応は難しいが、関係機関それぞれの取り組みの中で個々の障害への理解と啓発に努めたい。

※トウレット症候群とは まばたきや首振りなどの多様な運動チックと、鼻を鳴らすなどの音声チックが長期にわたって続くチック障害のこと。

掲載分以外の  
質問項目

【防災・防犯】

○災害対策の現状をどのように認識しているか

○小平市に避難されている被災者に寄り添った支援を望む

【医療・健康】

○すべての小・中学校の児童・生徒の医療費助成の所得制限撤廃を

○ヒブ・小児用肺炎球菌・子宮頸がん予防ワクチン接種費用の全額助成を